

【入会方法】JSPPのHP (<http://www.jspp.net/>) より入会資料
請求フォームに記載の上、ご請求ください。
年会費 10,000円、入会金 10,000円

「小児歯科医療と社会奉仕活動」



全国小児歯科開業医会 理事

濱野 良彦

医療法人元気が湧く子どもの歯科 福岡市開業

思い起こせば10数年前、「小児歯科臨床」が創刊された頃に、JSPP理事と日本小児歯科学会の執行部との懇談会の場で、当時の学会長のN教授が全体討議として「小児歯科の臨床医として、何をすべきか、何をしたいのか？」と我々JSPP理事に問いかけられた事を思い出します。いろいろな意見が出ましたが、私は、「ボランティア活動が必要だ」と答え、N教授は賛同されましたが、私は次に「無料歯科健診といった歯科医療を通してのボランティアではなく、歯科医療とは関連ないゴミ拾いや溝掃除などの街の清掃活動など」と追加発言すると、それまでとは一変して、ボランティアの必要性を否定されました。N教授は、歯科医師は歯科医師であるべき崇高な行動を期待されたのでしょうが、さて、昨今の社会情勢を考えてみますと、その当時の討論を回顧的に懐かしんでいる場合ではないとの思いで複雑な悩みとなっています。

これも10数年前の話になりますが、小児歯科の臨床現場では、定期的な健診、フッ素塗布、シーラント等のむし歯予防処置は自由診療とされ、当時の疾病に対する手当てとしての健康保険制度には含まれていませんでした。むし歯の洪水の時代を経過し、予防処置に小児歯科の臨床体系が移行している時代でしたので、小児歯科の臨床と健康保険制度は交わることのない矛盾点を抱えていたのです。現状は不十分ではありますが、この両者が交わる制度で小児歯科の臨床は存続しています。それは矛盾を含んだ制限付のフッ素塗布であり、「管理」と称する医療制度です。私は、現状を否定するものではありませんが、多くの問題点が解決されないまま小児歯科医はその制度下に置かれていることも事実です。

さてそこで、上述しました2点の昔話を念頭に置いて、小児歯科医療と社会奉仕活動を考えてみます。「小児歯科臨床」が創刊されてから長い間最初のカラーペ

ージは、全国の小児歯科開業医の診療室を紹介した内容でした。色彩豊かな待合室や絵本におもちゃ、全てが子どものために考えられた工夫点で特別な待合室を覗き見るような楽しさがありました。

小児歯科医院だからこその情熱をそこに見ることができました。確かに他の医院との差別化を考えた上のことだとしても、そこには経済的な負担と工夫する苦悩の結果があってこそ実現できたのです。すなわち社会的に小児歯科医療の理解度や認知度を高めるために、社会との接点を子どものためにどのような医療環境を創造するかを真剣に考えての実践が、今も継続されているのです。待合室には、スポーツ新聞と女性週刊誌だけでは不十分であることは今日では当たり前となっていますが、出発点は小児歯科医院なのです。

今一歩進んで小児歯科医療と社会との接点を考えなければいけない時代が来ていることは、JSPPの会員の方々はすでにお気づきだと思います。

東日本大震災から日本人は多くのことを教えられています。特に社会奉仕活動は、10数年前とは異なった考え方で社会から受け入れられています。

子どものために、今、何をすべきかを問い直しますと、日本の将来を担う子どもたちが被災地の子どもたちの助けになろうとしている姿を多く目にします。日本人全てが何かしなければいけないと考えているのです。では私たち小児歯科医は何を？と問われると、出てくる答えは、不適當な表現になりますが、子どものおかげで私たちの生計が成り立っているわけですから、他の人たちよりも多くの思い入れがあり、それを実践するためには、医療とは関連のない奉仕・支援での社会との接点に一歩進んだ工夫ある活動を創造すべきです。

小児歯科医療において、この数10年革新的な技術開発がなされたわけではありませんが、子どもに対する私たちの「こころ」は大きく前進しています。しかも、むし歯の予防と真正面から取り組み健康保険制度と対峙しなければならない事象は、昔とは段違いに減っています。ですから、昔とは様変わりしていることに気づき、面倒で様々な困難はあるでしょうが、JSPP会員一人ひとりが積極的に社会奉仕活動に物心ともに参加すべき時代ではないかと考えます。